

福島県PTA連合会会報
第50号_H11.12.06

P T A ふ く し ま

第 50 号

福島県 P T A 連合会

編集/調査広報委員会

印刷/泉印刷所



収 穫 の 秋

↑ 収 穫 祭

→ 国際理解教育



各学校においては、この2学期も子どもたちのための多様な活動が展開されたことでしょう。

今号では、東白川郡鮫川村立渡瀬小学校の活動の一端を紹介します。

[写真提供：鮫川村立渡瀬小学校]

今年度の大会は、実行委員会の発足当初から、相馬市という小都市での開催ということで、交通の便や設備といったハードの面の不備と、我々の経験不足など多くの不安を抱えておりました。しかしながら、現状の相馬でできる最善を尽くそうとメンバーで意志を統一し、企画運営いたしました。

最後に、次年度開催されます仙台市での東北大会、白河市での福島県大会が、今年の相馬大会より一層有意義な大会となることを心よりお祈りして、実行委員会を代表しての御礼いたします。

（社）日本 P T A 全国協議会・第三十一回東北ブロック研究大会兼第四十八回福島県 P T A 研究大会相馬大会を、九月十日、十一日の日程で開催いたしましたところ、東北各地より二〇〇〇名を優に越える会員の皆様の参加を頂き盛会のうちに終了できましたこと、主管した相馬地方 P T A 連絡協議会を代表いたしました御礼申し上げます。また、本大会開催に当たりまして、ご支援、ご協力を頂いた関係各機関の皆様に重ねて御礼申し上げます。

私どもは、今大会で貴重な経験をし、通常の活動では得られない成果を東北各地の皆様から頂いたと思っております。この力を、今後の P T A 活動に生かしていきたいと思っております。



大会実行委員長 武田一奉

相馬大会を

ふりかえって

県P連スローガン『語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を』

(社)日本PTA全国協議会
 第三十八回東北ブロック研究大会相馬大会
 第四十八回福島県PTA研究大会

多くの成果を収めた相馬大会

「夢あふれる未来社会とするために、子どもと共に新世紀の扉を開けよう」を大会主題に、九月十一日の両日、相馬市で行われました「第三十一回東北ブロック研究大会相馬大会並びに第四十八回福島県PTA研究大会」は、多くの成果を残して終了いたしました。

大会をふりかえって

事務局長 佐藤 信義

「野馬追いと民謡の里」相馬市において、第三十一回東北ブロック研究大会相馬大会・第四十八回福島県PTA研究大会相馬大会が、東北六県と仙台市から二千二百余名の参加者を得て、大成功裡に終了いたしましたことに関係者一同心より感謝申し上げます。

さて、相馬大会推進にあたっては「正確に」「係の一人一人が自信をもって」「参加者各位が迷わずに」

「経費を節減して」「相馬の特色を出す」の方針で準備や運営を進めてまいりましたが、地方開催の現状から多くの問題がありました。全体会会場の市民会館が満席になるため、スポーツアリーナを第二会場としてモニターTVを設置しましたが、画面が小さくその上、映像と音声鮮明でなかったこと。

にもかかわらず、福島県浜地区・東北地区・県中地区の一部の会員の方々に協力参加していただきましたことに福島県P連の仲間として心強く感じました。また、分科会場及び駐車場や宿泊施設を市内広域に設置しなければならなかったこと。それでも慣れない仕事を係員が互いに協力連携して遂行している姿に感動いたしました。

更に、大会要項に多くの訂正箇所があったことをお詫び致しますとともに、発表者の決定や原稿の遅れ、そして参加者の追加や変更等に振り回されて、校正不十分であったことは大いに反省するところです。

終わりに、次年度東北ブロック研究大会仙台大会、福島県PTA

研究大会白河大会のご盛会と各単位PTAのご発展、そして会員皆様のご多幸をご祈念申し上げます。

■第一分科会 提言者

安藤 喜昭 (梁川中P会長)

東北ブロック研究大会という大きな大会での問題提起は、私にとつて今まで経験のない役割でした。それだけに、一抹の不安を抱いて参加した分科会でしたが、大過なく終えることができたことに、安堵感と一つの巡り合わせの中で、貴重な体験ができたことに喜びを感じています。

「夢あふれる未来社会とするために……」の大会主題のもと、同じ目的に向って共に活動している多くの仲間と語り合い、活発な意見の交換がなされたことに時間の経過を忘れるほどでした。

運営並びに会場責任者の方々の細かな心遣い、そして、司会者の確かな判断での進行にはすばらしいものがありました。周りのそれぞれの方々の支えがあったからこそ無事に役目を果たすことができたと感じております。

つたない発表ではありませんが、今後のPTA活動の参考になれば幸いです。このような大きな大会を運営された相馬地方のPTA実行委員の方々に、心より感謝を申し上げます。

■第二分科会 提言者

中島 重治 (若松二中P会長)

事前の準備として、PTA各委員役員の方々に集まって頂き、テーマにそったこれまでの活動についてまとめ、二中ならではの特色について、想定問答も実施して臨みました。

当日の午前中に、各分科会に分かれて、関係者による会の進め方や内容について打ち合わせがあり、おかげで提言発表について私なりの心の準備ができました。

実際の発表に当たっては、事前に送られてきた大会要項の執筆内容に添って話をし、特に強調したい点には補足する形で予定の時間を終えました。持ち時間内での発表ができた良かったです。

本校は、平成三年に新校舎が完成し、教科教室型システムを導入した学校ということで、多くの質



問があり、室井校長先生にも説明して頂きました。また、広報紙への取り組みについての質問も多かったです。

提言者や助言者の話だけで終わるのではなく、会に参加された多くの方々の意見交換も活発になされ、大変有意義な時間が持てたと思います。ご準備に当たられた関係の方々にも心より感謝します。

■第三分科会 提言者

早川 栄二 (常葉中P会長)

福島県を代表し、第三分科会の提言者として、「教育環境の整備と地域活動の促進について」をテーマに、三百名もの参加者の前で発表させて頂きありがとうございました。

わが地域においても、教育環境にふさわしくない有害ビデオの自動販売機が設置され、この対処方法として、自販機撤去運動の実施、その結果等について発表いたしましたところ、数多くの方々からご質問やご意見等、活発に出され、意義深い分科会となりました。

その中で、ある方から、「実は自分の地域でも、この問題に苦慮しているところで、とても参考にになりました。ぜひ地元に戻り、この活動を実施してみます。」との声を聞き、発表してよかったと実感したところです。

私達、子を持つ親として、子供

達が健やかに育ってほしいという願いのもと、今回のような研究大会を通して、様々な角度から、親自身、それぞれの単P、地域社会との連携の在り方を考えるよい機会ではなかったかと痛感いたしました。第三分科会でお世話になりました皆様へ厚く御礼申し上げます。

■第四分科会 提言者

佐藤 幸彦 (白河一小P会長)

『生きる力』を育む家庭と学校の役割について」という内容で提言者として参加し、開かれた学校を目指し、本校PTAが行っているボランティア活動について発表させて頂きました。

多くの方々が、活動内容に興味を示され、多くの質問等を頂きました。また、分科会終了後も、活動内容の詳細について熱心に質問される会員の方もおられ、改めてPTA活動に真剣に取り組んでおられる皆様の姿勢を強く感じました。

私自身にとっても、他校のPTA会員の方々が行っている活動を多数拝見することができたこと、コミュニケーションが図られたことなど、これからの活動にプラスになる面が多くありました。

本大会で吸収した新しい活動や必要と思われる面をフルに生かし、開かれた学校を目指す本校の活動に取り入れ、家庭・学校・地域社会の一層の連携を深めていきたい

と思います。

最後になりましたが、大会開催関係者の皆様に御礼を申し上げます。

■第五分科会 提言者

市川 智子 (内郷一中P会長)

第五分科会の提言者をお引き受けし、当日に臨んで、PTAのプロ集団である皆様の前で発表するということは、一主婦の私にとつて十数年のPTA活動の集大成といふべき一大行事であり、あと一年となった小中PTA活動の最後の大舞台であったと思います。

大会当日までは、原稿はどうに提出し終わり、あと発表だけだからと高をくくって会場に行ったものの、大会前の打ち合せ等を終えて会場に入った頃には、いやが応にも緊張は高まっていました。

提言を終えて感じたことは、「会員の皆様方の圧倒的な熱意」の一言に尽きます。報酬のないボ



ランティア活動でありながら、学校ごと、地域ごとに活躍されている方々の、時代に伴って変遷していく子供達の姿に悩みながらも、何とか良い打開策はないかと奔走されている様子が伺われ、提言者としての自分の立場を忘れて聞き入ってしまいました。人はやはり、生活や金銭に関係しない、心の豊かさを求めるだけの活動も必要なのだ、この大会を通じて痛切に感じたところです。

■第六分科会 運営責任者

箕輪 達也 (県P連副会長)

いつもは楽な気分に参加していた研究大会でしたが、今回は分科会の運営責任者としての役割を与えられ、少しは緊張感を持って参加しました。

会の運営については、大会実行委員の皆様が一生懸命取り組まれたおかげで、開会から閉会まで何の支障もなく進行できました。改めて皆様に感謝申し上げます。

多少の不安といえは、意義ある充実した内容で分科会が進むかという点でした。また、テーマにそった流れができるか、質疑応答がスムーズにいくのか等々、始まりの挨拶をしている中で頭をよぎりました。

しかし、始まってしまえばそんな不安も消え去りました。すばらしい事例発表と司会者のリードで

会場からの意見も活発に出され、大変有意義な分科会になりました。東北大会ということで、県内の参加者数に制限がありました。一人でも多くこの雰囲気味わって頂ければ、各単Pのさらなる充実につながるものと思います。子育てに対する熱き思いを感じ取った研究大会でした。



■第七分科会 提言者

遠藤 静子 (行健小P副会長)

私は、第七分科会「養護教育」障がいのある人々の理解と交流について」の提言者となり、難しい題でしたが、実際にPTAで行っている活動のことと、会員は、「共に生きる、共に伸びる仲間」であり、かけがえのない子供たちのために、PTAとして何ができるか、一歩ふみ出し、着実に前進しよう」と提言致しました。

東北各地より参加の皆様が障がいのある人々に対しての取り組み

や思いを話し合い、問題などの意見交換、情報交換ができたことは、大変有意義でした。地域社会が受皿となり、家庭・学校がそれぞれの役割を十分に発揮できるように皆で考え、歩んでいけるPTAでありたいという思いを新たにしたい貴重な時間でした。終わりに、今大会の実行委員の皆様には、大変お世話になりました。素晴らしい大会をありがとうございました。

分科会	内容
1 組織運営	PTA活動の活性化を図る組織運営について
2 研修活動	生涯学習の視点に立った研修活動について
3 健全育成	教育環境の整備と地域活動の促進について
4 家庭と小学校教育	「生きる力」を育む家庭と学校の役割について
5 家庭と中学校教育	
6 健康・安全教育	心身共に健康な子どもを育てる活動について
7 養護教育	障がいのある人々の理解と交流について
8 特別課題	家庭の教育力を高める父母のあり方について

晴れの表彰

おめでとう

ございます

◆優良PTA文部大臣表彰

○いわき市立植田小学校父母と先生の会

○船引町立門沢小学校PTA

◆日本PTA全国協議会会長表彰

《団体表彰》

○福島市立北沢又小学校父母と教師の会

○東和町立南戸沢小学校PTA

○大信村立大信中学校PTA

《個人表彰》

網代智盟(県P連前副会長)

鈴木清次(同 前副会長)

小森良一(同 前監事)

栗原昭子(同 前理事 前母親代表)

大関義一(同 前理事)

菊地 洋(同 前理事 日P評議員)

◆東北PTA連絡協議会表彰

《団体表彰》

○保原町立上保原小学校PTA

○二本松市立二本松南小学校父母と教師の会

○二本松市立二本松第三中学校PTA

■第八分科会 運営責任者

坂上よし子(母親委員長)

東北大会への参加は、昨年の山形大会に次いで二回目です。

今年も、昨年に続いて、第八分科会の運営を母親委員会に任せて頂き、私自身が運営責任者としての参加でした。

今回は、母親委員会としての下準備がほとんどなく、当日、会場に行くまでは多少の不安はありましたが、運営打ち合せが終わり、会場を下見してその不安はとれまされた。役員の皆様の気配りが感じられ、安堵しながら第八分科会が

始まりました。

提言者の方からの発表、その後

他の分科会とは違ったバズセッション方式で、父親と母親が一つのテーブルで討議が繰り広げられました。各テーブルでは、熱気あふれる討議がなされ、この時間が一番充実していたのではないのでしょうか。

終わってから、参加者の皆様から「討議の時間ももっとほしかったけど、よかったよ」と言ってもらい、とても嬉しく思いました。参加者同士のコミュニケーションの大切さが感じられました。

最後になりましたが、会場責任者の針ヶ谷様、母親委員の皆様、役員の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

＝ 大 会 決 議 ＝

1. わたくしたちは、心の教育を中心とした家庭教育の重要性を再認識し、家庭や地域における教育力のより一層の向上に努めます。
1. わたくしたちは、生涯学習社会の中、新世紀を担う子どもの親として意識と資質の向上を図り、自他の人間性を大切にして、共に学んで活動するPTA創りに努めます。
1. わたくしたちは、地域社会における青少年健全育成の要として、家庭・地域・学校のより一層の連携を深め、子どもをとりまく生活環境の浄化と改善にむけたPTA活動に努めます。
1. わたくしたちは、生命・人権尊重の根本方針のもとに子どもの権利を重んじ、子どもをめぐる「いじめ」や「家庭での虐待」といった反社会的行為の追放をめざすPTA活動に努めます。
1. わたくしたちは、障がいのある子どもの教育環境の整備・充実を図ると共に、一人一人の特性と個性に応じた教育を推進するPTA活動に努めます。

平成11年9月11日

社)日本PTA全国協議会
第31回東北ブロック研究大会相馬大会

訪問

歯・口の健康づくり～学校との連携～

《熱塩加納村立熱塩小学校PTA》

本校PTAは、平成十一・十二年度文部省の歯・口の健康づくり研究校に熱塩小学校が指定されたことを機に家庭・地域との連携を深めながら、健康をテーマにしたPTA活動に取り組んでいます。

写真資料は、六月五日に行われた親子歯みがき教室の様子です。



喜多方市の宮城歯科医院長の講話、更に、歯科衛生士さんによる正しい歯みがきのしかたを具体的に教えていただきました。当日は、熱塩幼稚園の園児も参加しました。参加した保護者の間から、「今まで間違っていた歯ブラシの当て方をしていました。なあ。」という声も聞かれました。また、むし歯がいろいろな全身病につながる怖い生活習慣病であることを知り、びっくりし

ました。十一月六日には、学級発表会と有機無農薬で自分たちが作ったもち米を使って収穫祭を行いました。うすときねを使ってもちをつき、みんなでおいしくいただきました。その際、食(おやつ)を考える講演会を開催しました。本校主任栄養技師の坂内先生に昔ながらの和食中心の食事の大切さについて講演して頂きました。参加したPTA会員の中からは「スナック菓子より食品添加物の少ないおやつを考えて、子どもに食べさせた方がいいですね。」という声がかれました。

本校PTAとしても、今後とも学校と連携し、子どもたちの生きる力につながる健康づくりに取り組んでいきたいと思えます。

○郡山市立月形小学校父母と教師の会

○石川町立石川中学校 P T A

○会津若松市立門田小学校父母と先生の会

○猪苗代町立吾妻小学校父母と教師の会

○相馬市立八幡幼稚園小学校父母と教師の会

○いわき市立江名小学校 P T A

○いわき市立勿来第一中学校父母と先生の会

《個人表彰》

網代智盟

鈴木清次

佐藤幹夫(県P連前副会長)

小森良一

栗原昭子

大関義一

高久庄三(県P連前理事)

◆福島県 P T A 連合会会長表彰

(一) 個人感謝状 二十八名

(二) 団体表彰 三十一団体

(三) 個人表彰 九十八名

※県表彰については、「第三十一回東北ブロック研究大会相馬大会・第四十八回福島県 P T A 連合会研究大会」要項に載せてあります。

参加する保護者会

《いわき市立内郷第一中学校 P T A》

本校(生徒数六五九名)は、いわき市の中央部に位置し、かつては常磐炭坑の中心地として栄えましたが、現在は産業もなく、J R の跡地に新興住宅が立ち並び、ベッドタウン化しています。

本校父母と教師の会の活動テーマを「未来を拓く、心豊かな生徒を育成する P T A 活動の創造」として、

一、連携を強化するために「参加する保護者会」の推進
二、生涯学習の場として「成長する保護者会」の推進
三、「生きる力」を育成するために「生きて働く力」を定着させる P T A 活動の推進

の三つを掲げ、保護者・家庭と学校、そして地域社会との連携を深める活動を模索しています。

会員の教養を高めるため、県の出前講座を活用し、家庭教育をテーマにした教育講演会を開催しました。このときは、内郷方面の各 P T A にも参加を呼びかけ、地域の連携も図りました。

参加する保護者会の活動として、三年連続全国大会に出場している陸上部、剣道部、柔道部、放送常



任委員会を始めとする各部活動の大会出場を激励する生徒会行事に出席し、生徒の健全育成のため、側面からの協力もしています。文化祭では、お母さんコーラス団を結成し、美しい歌声を披露しました。今後、学校と連携し、地域社会を巻き込みながら、心豊かな子どもたちの育成を目指して、活動を創り上げていきたいと思えます。

単 P

本校は昭和五十一年に開校しました。学校周辺は新興住宅地域として開校当時より急激に発展し、二十四学級、児童数八百十三名、P T A 実数六百三十三名です。



学校は昭和五十一年に開校しました。学校周辺は新興住宅地域として開校当時より急激に発展し、二十四学級、児童数八百十三名、P T A 実数六百三十三名です。

学校の南側はのどかな田園風景ですが、東側には四号バイパスが通っており、ゲームセンター、ビデオショップ、大型スーパー等が立ち並び、私たちが取り巻く環境は日に日に変化しています。

住環境の変化だけでなく、価値観の多様化や共働きの増加など、新しい時代の中で、会員意識の低下や地域離れが指摘されています。

ていますが、『六年間の内に児童一人につき一度は役員を！』の基本コンセプトのもと活動を展開しています。

このため、役員が入れ替わり、

子どもたちの明日を信じて

《郡山市立柴宮小学校 P T A》

それによって新陳代謝が行われ、活動が活性化しています。活動は、大きく二つに分類されます。一つは、学年委員会による学年行事とおとした親子のふれあいです。ミニ運動会やエアロビクス会など親子で楽しむ活動が多いのが特徴です。

もう一つは、教養、広報、厚生、生活指導の各専門委員会による活動です。会員の資質の向上や親睦を深める研修活動などが主な活動です。

また、ベルマーク活動も盛んで四百万点を超える点数を集め、和太鼓や登り棒などを購入しています。

創立二十四年とまだまだ若い組織ですが、『心豊かでたくましく生きること』柴宮っ子と共にがんばっています。

＝安全互助会から＝

今年度11月30日現在の損害賠償の申請のあった件数は、108件（学童99件、PTA9件）起きております。

それらの中から、幾つかの事例を紹介しします。

- 下校中、持っていた傘の先が、誤って友達の左目にささりケガをさせた。

(賠償額 17,500円)

- サッカー部の部活動中、蹴ったボールが校地外に飛び出し、道路を走行中の自動車の屋根に当たり破損させた

(賠償額 115,878円)

- 休み時間に体育館でバスケットボールをしていて、シュートしたボールがそれ、ギャラリーの窓ガラスに当たってガラスが割れた。その破片が外の駐車場に止めてあった自動車の後部にキズをつけた。

(賠償額 449,071円)

- 親子球技大会中、PTA広報担当者がデジタルカメラ（学校備品）で撮影中、バレーボールが飛んできてカメラにぶつかり、カメラが落下し破損した。

(賠償額 27,300円)

賠償事故が発生した場合のお願い

1. 県P連事務局に「賠償事故報告書」を早急にFAXで送ってください。
その内容によって、必要な手続きなどをお知らせいたします。
2. **問い合わせ・連絡は**、県P連事務局にTELかFAXでお願いします。

事故ゼロの

笑顔でむかえる

二〇〇〇年

十一月三十日現在での幼稚園(安全互助会加盟園のみ)と小・中学生の交通事故による死亡者数は、三名(小学生一名、中学生二名)で、昨年同期より六名減となっております。会員皆様の交通事故防止に対する取り組みに感謝申し上げます。

さて、今年度も年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動が次のように実施されています。
つきましては、会員の皆様のごらなる無事故への取り組みをお願いします。

【期間】

平成十一年十二月十日から
平成十二年一月七日まで

【スローガン】

事故ゼロの 笑顔でむかえる

二〇〇〇年

【運動の重点】

- ◆ 飲酒・無謀運転の追放
- ◆ 交差点の交通マナーアップ

日P基金への協力を お願いします

このことについては、十一月各学校に文書でもってお願い申し上げたところですが、よろしくご協

力ください。

なお、次のものになります。

- 書き損じはがき
- 未使用テレフォンカード
- 未使用切手
- 現金

福島県は、割当目標額(九百五十五万五千二百六十四円)に残り約三百二十二万円となっております。PTA会員数が約十八万六千名ですので、一人当たり十七円弱の協力で目標額に達することになります。

今年度でなんとか福島県も目標を達成したいと念願しておりますので、重ねて基金へのご協力をお願いいたします。

◆編集後記◆

西暦二〇〇〇年問題がマスコミを賑わしておりますが、電気、水道、ガス、交通機関、金融機関等々日常生活に直結したところでのトラブルの皆無を願うものです。
ところで、私どもPTAとしての二〇〇〇年問題は何なのでしようか。マスコミという一瞬の問題ではなく、二十一世紀の世界を見据え、我が国の未来をも視野に入れた中からの問題の把握とその共有化と実践とが課題であるかと考えます。
PTAに関する初夢なんて如何でしょうか。

福島県PTA安全互助会

TEL・FAX 024-545-5982

《提携損保》

共栄火災海上保険相互会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507

FAX 024-523-3509